

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・国内客が増加しており、外国人観光客も減っていないことから、売上は前年比107%、一昨年比135%と好調である。外国人観光客による売上の占める割合は前月の約45%から20～30%とやや低下している。現政権の経済対策の効果が表れてきていることが実感できるようになってきた。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・5月は外国人観光客の減る時期であるが、LCCの就航が増加していることで例年と比べて来客数が伸びており、売上も増えている。国内客についても大きな学会が開催されたことで週末を中心に来客数が上向いており、堅調に推移している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・地域住民及び郊外からの買物客が微増している。また、商店街における道内外からの小グループの観光客が例年よりも多く、装飾品、衣料品などの業種を除けば売上が伸びている。特に飲食関連の業種では昼夜を問わず売上を伸ばしている店舗が多かった。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・前月から継続した傾向だが、高額時計や特選ブランドなどの商材の動きが良く、客単価も上昇傾向となっている。高額商材の購買者も、かつてのような高齢者ばかりでなく、30代の若年層もみられるようになってきた。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中の天候が余り良くなかったことで行楽需要が落ち込んだためか、月初から来客数がプラスで推移している。それに伴って販売量も堅調に伸びている。月後半になっても来客数の増加が続いており、しばらくの間はこの状況が続く。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・5月初めからエアコンがよく売れている。また、見積りの引き合いも例年以上にある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・売上が前年よりも僅かだが伸びている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・寒い日が散見されたが、おおむね天候が安定していたため、芝桜やチューリップなどの花観光が順調なスタートを切った。また、出張や視察旅行など、ビジネス客の動きも活発になっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・腕時計などの動きをみると、低価格帯から中価格帯のニーズの高い商材はネットショッピングで買われ、ベルトのサイズ直しに店に来るといった客が目立っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・北朝鮮問題の動向が景気に影響している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年の北海道は寒暖の差が激しく、衣料品が苦戦を強いられている。ただ、極端に景気が悪いわけでもなく、落ち着いた雰囲気が見られる。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・青果物の動きが活発化し始めた。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・5月の売上はとても良かった。ただ、高額商材であるウイスキーなどのキャンペーン効果による面が大きく、全体的に景気が上向いているという雰囲気はない。
		百貨店（担当者）	販売量の動き	・店舗内でショップがオープンしたことで、当該ショップを含めた一部では販売量が伸びているものの、全体的には気温が低かったことの影響もあり、販売量が伸び切れておらず、トレンドは大きく変わっていない。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・社会情勢として景気が上向いているとの報道がみられるが、身の回りの景気はそう変わっておらず、ギャップがある。
		百貨店（営業販売促進担当）	販売量の動き	・天候にも恵まれ、来客数はプラスで推移しているが、買上客数が前年割れとなっている。食品以外の商材は全体的にマイナス基調で推移している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・5月はゴールデンウィーク、子供の日、母の日など、生活催事マーケットのある月だが、依然として客の節約志向が強い。高単価商材の動向が悪く、ついで買いも少なかった。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・5月はゴールデンウィーク明けから、売上が急激に減少している。客にとってお金に余裕のない状況が続いている。

スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数の減少が続いており、食品スーパーを取り巻く消費環境は必ずしも良くない状況にある。
スーパー（役員）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク後半の悪天候により、観光、花見の動きが盛り上がりせず、その後も悪い流れが続いている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の前年比は3か月前より悪化しているが、ゴールデンウィーク時の悪天候による影響が大きく、その影響を除くと横ばいで推移している。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・相変わらず来客数が前年を下回っている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数に伸びがみられない。前年を下回って推移している。
乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・各社共、週末のイベントでの客の入込が上向く様子がみられない。サービス部門のタイヤ交換での来店を除くと、ショールームでの商談も盛り上がりが見られない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・景気が上向くことを期待しているが、良いとも悪いともいえない足踏み状態が続いている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の効果に期待しているが、今のところ、景気は変わらない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車効果もあり、全拠点で目標販売台数を達成するなど、販売の動きが活発になっており、良い状態が続いている。
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・前年は国内タイヤメーカーの値上げを前にした駆け込み需要があり、タイヤを中心に売上が伸びたが、今年の売上は前年比90%前後と苦戦している。
その他専門店【医薬品】（経営者）	単価の動き	・タイムリーな情報発信を行う健康セミナーなど、顧客優遇策の効果もあり、顧客の動きがやや回復してきている。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・当店は大きなショッピングセンターに入っているが、客の様子をみても買物しているような雰囲気が見られない。店内を歩いて買物している人も余り見掛けないことから、景気はそれほど上向きではない。ただ、観光客が段々と増えてきていることはプラスである。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・4月下旬に桜が満開となったこともあり、5月に入ってからの客の勢いは前年並みとまではいかなかった。週末はランチ、ディナー共満席になるが、平日はランチのみがほぼ満席になる状況であり、売上は前年を10%下回る厳しい結果であった。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク後に客単価が低下したが、売上はどうか前年並みに収まった。野菜の価格高騰がようやく落ち着いてきて、安心して生野菜を使えるようになったこともプラスであった。ただ、この時期は、天候によって客の選ぶメニューが変わりやすく、雨だと来店せずに社内で弁当、曇ると温かいメニュー、晴れて気温が上がると冷たいメニュー又は辛いメニューを選ぶ傾向が強まる。月後半は、市内中心部で食のイベントが始まったことで、周辺の店舗では特に好天の日のランチに影響があったようだ。また、特に今年は25日の給料日以降、1万円札の使用が多く、両替が大変だったようだ。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・今年は前年に開催された大型国際学会に代わる案件がなく、落ち込み分をWebでの予約客でばん回している状況である。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・前月と同様に、取引先企業での販売額が微増傾向で推移している。
旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	・取扱実績が前年を下回っており、業界として需要が縮小傾向にある。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・海外旅行の需要が回復してこない。
タクシー運転手	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークなどで休日が多い月であるため、タクシーの利用がいつもより少なくなる。今年はゴールデンウィーク明けのタクシー利用も前年を下回っており、乗務員不足でタクシーの稼働率も悪いことから、売上は前年を大きく下回った。
タクシー運転手	来客数の動き	・業種的に夜間の人の流れに左右される面があるが、人の流れに特段の変化はみられない。販売量の落ち込みは、労務者不足による面が大きく、抜本的な解決の道が見えない状況にある。

	タクシー運転手	来客数の動き	・5月も厳しい景気状況に変わりがない。以前はこの時期になれば、観光客、地元客にそれなりの動きがみられ、まずまずの売上があったが、今年は観光客、地元客共、動きがみられず、前年実績を下回っている。
	通信会社（社員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けから来客の動きが鈍化している。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・客が格安の競合会社に流出する動きが3か月前と変わらずにみられる。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク明けの来客数がかなり減少していたが、後半になってばん回してきたことで、結果的には例年並みの売上となった。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・技術売上、店販売上共、ここ3か月、ほぼ変わらないうで推移している。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・スタッフが減った一方で、来客数が減少しなかったため、売上には変化がみられなかった。ただ、物販売上はネットショッピングで購入する客が増えている分、売上が減少している。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株式市況が安定していることもあり、客の様子は余り変わらない。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来客数に余り大きな変化はない。ただ、客の様子をみると、じっくりと部屋を見て、時間を掛けて購入を検討している。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・市内のスーパーマーケットの価格競争が激化しており、各店の売上状況が悪くなってきている。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・5月は前年と比べて、ゴールデンウィークの日並びが悪かったこと、気温が低く推移したことの影響で、月初めから畜産品、飲料品、飲料系日配品、酒類などの商材やアウトドア系部門が苦戦している。ゴールデンウィーク後も、前年と比べて最高気温が平均1.5度も下回っていることから、来客数の減少が続いており、ここ数か月で最も厳しい状況にある。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・例年よりも気温が低いことの影響もあるが、天候が良い日も客の購入量が増えてこない。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの悪天候の影響で行楽地の動きが悪く、来客数が大きく減少している。
	衣料品専門店（店長）	競争相手の様子	・夏に向けての在庫の積み込みが明らかに少なくなっており、これから売上を伸ばしていこうという体制ではなくなっている。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・原油価格高騰に伴う石油製品価格の上昇により、客の1回当たりの購入量が少なくなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・国内観光客、外国人観光客共、来客数がややマイナスとなっている。同業他社も同様の状況のようである。
	タクシー運転手	競争相手の様子	・前年と比べて稼働状況が落ちてきている。同業他社の稼働状況も落ち込んでいるようである。
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・5月初めのゴールデンウィークが悪天候であったため、利用客が伸びなかった。ゴールデンウィーク後は、天候に恵まれたにもかかわらず、弱い動きが継続しており、25日時点の利用客数は前年比95%となっている。
	パチンコ店（役員）	単価の動き	・原油価格の上昇に伴い様々な商材で価格が上昇しており、景気はやや悪くなっている。
	その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー]（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク時の天候悪化に伴う欠航の影響に加えて、全体的に輸送量の動きが鈍いこともあり、例年と比較して減少傾向で推移している。
×	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・これまで売上は来客数ほどの落ち込みがみられなかったものの、5月の売上は来客数に応じた落ち込みとなった。
×	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの客足は例年にならぬほど鈍かった。また、5月全体としても国内客の動きが悪く、売上が減少している。
×	タクシー運転手	販売量の動き	・これまで売上は前年比で微減と表現していたが、減少という表現に変更せざるを得ないほどの落ち込みとなってきた。
企業動向関連	-	-	-
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・5月の販売量は前年比プラス8%となっており、3か月前の前年比プラス3%と比べて上向いている。

(北海道)	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・4月の年度始めから現場のフル稼働状態が続いている。工事の進捗状況に大幅な遅れもなく、出来高が順調に積み上がっている。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・建材など、国内からの移入や輸入が本格的に増えてきている。
	コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・自動車業界の需要が好調である。電気自動車の市場投入の情報も入ってきており、そのための設備投資の動きも見込めるようになってきている。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大都市は別として、地方都市の景気は良くない。政治、経済共に閉塞感から抜け出せないなかで、外国人観光客は増加しているが、その恩恵を受ける業種は限られている。
	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・建設業の処理能力を超える量の仕事の発注があるが、交付金を受けた農業施設工事などは採算性が悪く、必ずしも適正な利益が得られていない。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は引き続き堅調で、やや良い景況感が持続している。方向性としては良い意味での横ばいとなっている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・原材料価格や人件費の上昇が企業業績の重荷になっている。また、エネルギー価格の高止まりから個人消費に節約志向がみられるが、堅調に推移している外国人観光客による消費が道内景気を下支えしており、3か月前と横ばいで推移している。
	司法書士	取引先の様子	・土地、建物の不動産取引が停滞している。建物の建築は例年の同時期と比較して、件数がやや少ない。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・荷動きがやや活発になってきている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・4月までは前年比で10%以上の上昇率を示してきたが、5月に入り前年並みに落ち着いてきている。
	食品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・徐々に売上が落ちてきている。前年比でも5%以上落ちている。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比較して、不動産の売買、建物の新築、増築工事が少ない。
	司法書士	取引先の様子	・不動産の引き合いなどはあるが、成約には結び付いていない。買手が慎重で、なかなか取引が進まない状況にある。
その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較すると売上が悪くなっている。ただ、当初予測していた数値どおりの結果であり、上乗せにつながるようなプラスアルファの売上が伸び悩んでいる。	
x	-	-	-
雇用関連			
(北海道)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・引き続き求人数が増加傾向にある。特に営業職の求人は求人数全体の3割を超えており、企業において業績を拡大したいという意欲がいまだに強い。しかしながら、採用意欲が旺盛であるにもかかわらず、採用に当たっては妥協することなく、一定のスキルを有していない人材は提案しても不採用となる。一方、求職者も売手市場ということを認識しており、容易に入社を決めず、求職者と求人企業のミスマッチが続いている。企業は人材確保が進まないことで、業績拡大のチャンスを逃すことにリスクを感じているようである。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・観光面で外国人観光客の入込が順調に推移していること、基幹産業である農業で農産物が順調に生育していること、大型の商業施設などの建設プロジェクトが動いていることなどから、景気はやや良くなっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・雇用形態や業種、職種を問わず、表面的には求人件数に大きな変化はみられないが、人手不足感は全職種に根強く潜在している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・全体的にパート、アルバイトの採用意欲が低下している。特に小売業の採用意欲が低下している。ただし、観光シーズンということもあり、ホテル業界など、観光関連の業界では比較的採用意欲が高い。運輸業界は大手企業の採用意欲は依然として高いが、中小企業の採用意欲は低い傾向にある。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・人手が欲しいと考えている企業は相変わらず多いが、どのように募集しても採用できないと考える企業が多い。とりあえず繁忙期だけ乗り越えることができれば、後はどうにかなるだろうと考えている企業が目立つようになってきている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が6年6か月連続で前年を下回り、月間有効求人数は1年3か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は1.01倍と8年2か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は3か月ぶりに増加したが、有効求人数は3か月連続で減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の有効求人倍率は1.00倍であり、前年を0.05ポイント上回り、高い水準で推移している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・原因が分析できていないが、4月の新規求職申込者が増加している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・最近のガソリン価格高騰は消費者にとって良いことではないが、個人消費を縮小させるほどではない。企業の新卒採用活動は全般的に積極的であり、今年も学生側の売手市場が続いている。生命保険や住宅販売など、ノルマのきつい業界や勤務時間が長い外食産業が敬遠されているが、そのほかは全体的に学生とのマッチングがスムーズにスタートしている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年、一昨年と同時期と比べて求人数が減少している。
x	-	-	-